

下仁田の段丘と遺跡

Terraces and archaeological sites in Shimonita, Gunma Prefecture, central Japan

中村由克^{*1}・金剛萱遺跡研究会^{*2}

Yoshikatsu Nakamura and Kongokaya Site research Group

キーワード：段丘，遺跡立地，旧石器時代，縄文時代，鑄川

Key words : terrace, geological situation of sites, Palaeolithic, Jomon age, Kabura River

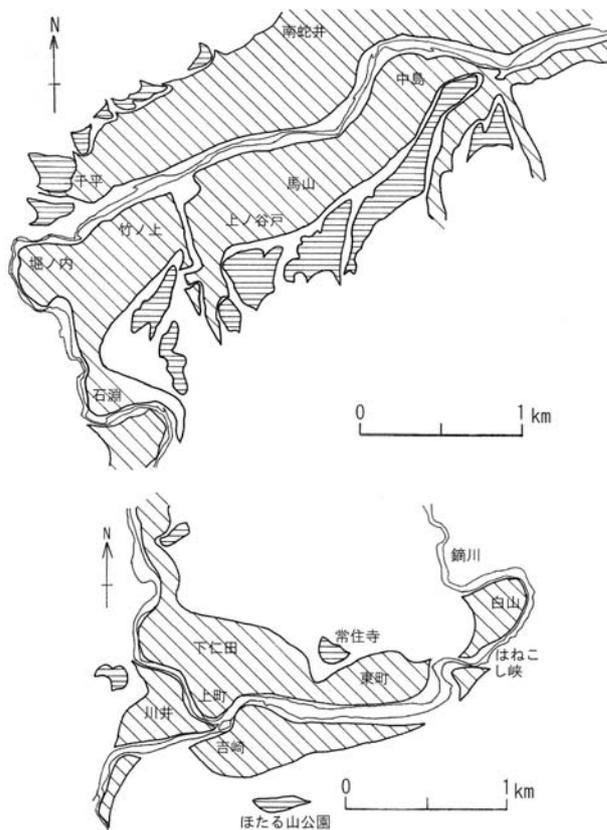
はじめに

下仁田は利根川支流の鑄川最上流の地域である。鑄川流域の藤岡市鮎川合流点から富岡市・甘楽町の雄川合流点までの右岸（南岸）には、段丘地形がよく発達している（新井 1986）。上流の下仁田町馬山には2段の段丘地形がある（町田 1963；須貝 1996）が、それより上流については不明な点も多い。下仁田地域の第四紀地質については、関東火山灰グループが更新世中・後期の下仁田ローム層の層序を明らかにしている（関東火山灰グループ 2009）。下仁田町内の第四紀の地形面を中心に扱った研究は上記のほか、上杉・竹本（2000）、田力ほか（2011）があるが、詳細な表層地質図、地形面区分図は群馬県（1994）が取り扱っているぐらいである。

一方、金剛萱遺跡研究会は町内の旧石器・縄文時代遺跡の研究を2009年以降続けていて、金剛萱遺跡で旧石器時代の遺物群の存在を明らかにした（金剛萱遺跡研究会 2016, 2017）。それとともに、馬山地区では旧石器・縄文時代遺跡が高位の段丘上に位置する傾向を指摘した（金剛萱遺跡研究会編 2014）。2017年には、下仁田町における第四紀地質の分布と遺跡立地に関する研究に着手したので、その概要を報告する。

馬山・下仁田地域の段丘

下仁田町馬山と対岸の富岡市南蛇井付近は、典型的な2段の段丘地形がみられる。段丘面の名称は、新井（1986）にしたがって上位段丘，下位段丘としてその記載を行なう（第1図）。



第1図 馬山～下仁田地域の第四紀地質図

横線部：上位段丘 斜線部：下位段丘
上：富岡市南蛇井・下仁田町馬山地域
下：下仁田町下仁田地域

2018年1月19日受付。2018年2月13日受理。

*1 下仁田町自然史館 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1 (naka-m@opal.plala.or.jp)

Shimonita Museum of Natural History, 158-1, Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun, Gunma, 370-2611 Japan

*2 連絡先：下仁田町自然史館

調査参加者：麻生敏隆，保科 裕，小林忠夫，光井 久，中村由克，斉藤尚人，鈴木伸太郎，寺尾真純

Toshitaka Asou, Hiroshi Hoshina, Tadao Kobayashi, Hisashi Mitsui, Yoshikatsu Nakamura, Naoto Saito, Shintaro Suzuki, Masumi Terao

上位段丘

模式地：下仁田町馬山米山寺付近

分布：鑄川右岸（南岸）の下仁田町馬山の^と下仁田インターチェンジから米山寺にかけて、標高250～290mのよく連続した丘陵上の平坦面を構成する。段丘面の上は多くの谷により開削され、面上の起伏が大きい。左岸（北岸）側には段丘の発達が悪く、富岡市南蛇井中村～千平付近に標高240～260mの狭い平坦面が山麓に位置する。

不通橋から石淵の鑄川屈曲部より上流には、上位段丘は少なく、右岸のほたる山公園（標高320～330m）、川井の天狗平（標高300～310m）、左岸の常住寺（標高285～290m）、下小坂の下仁田町歴史館（標高290～310m）の4か所のみである。

層序：模式地付近では、地表に耕土（表土）、黒色土層があり、その下にYP、BPなどの浅間山起源の軽石層ををさむ下仁田ローム層上部の褐色ローム層がみられる。それより下部は不明である。

米山寺南側の谷には、段丘礫層がみられる。礫径5～30cmの角～亜円礫主体の不淘汰な礫層で、礫はクサレ礫になって

いる。上流域では、天狗平、下仁田町歴史館でも、礫径10～40cmの亜円礫を含む段丘礫層が確認される。礫の風化殻は厚い。概して段丘構成層を観察できる場所が少なく、その層序については不明な点が多い。とくに上流域の下仁田では、基盤の岩盤がみられ、段丘堆積物が少ないので、浸食段丘である可能性が考えられる。

比高：右岸の馬山では70～90m、左岸の南蛇井では50～60m、上流の右岸・ほたる山では90～100m、天狗平では60～70m、左岸・常住寺では55～60m、下仁田町歴史館では40～60mである。

下位段丘

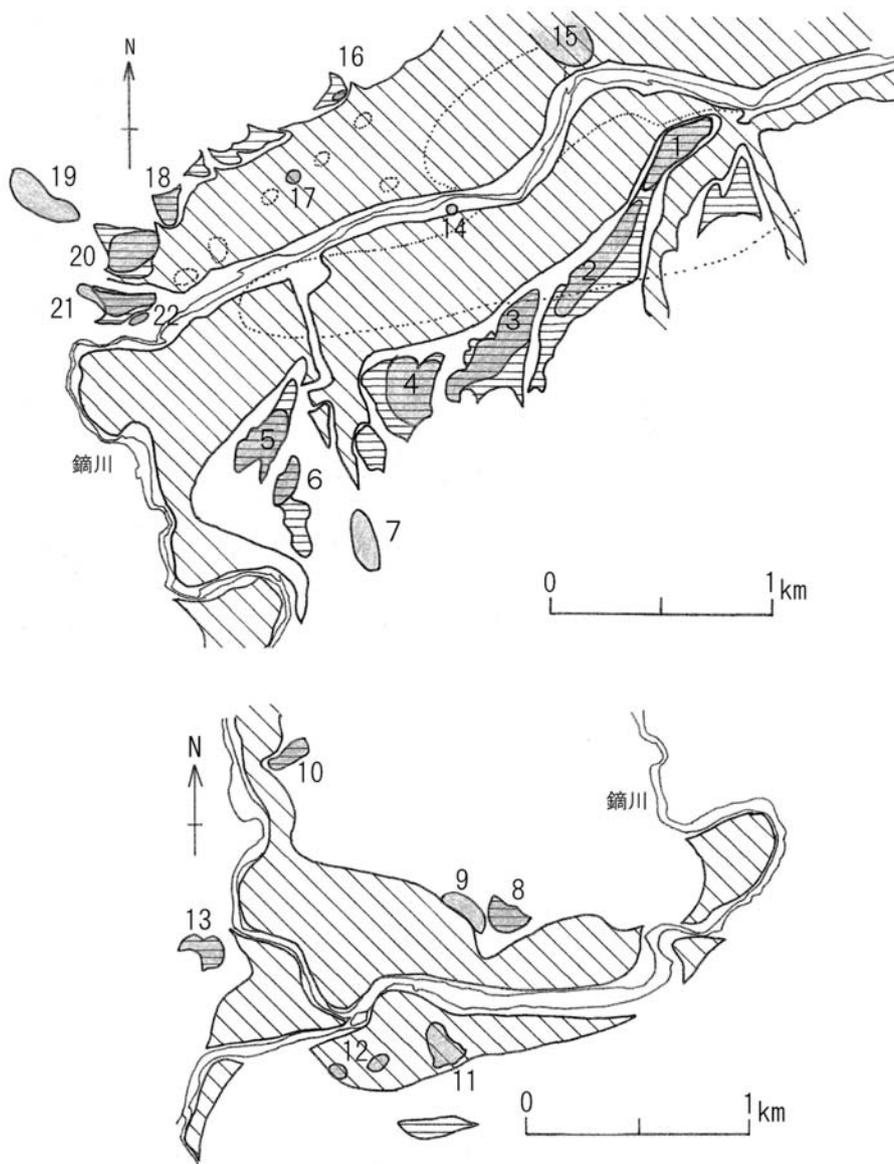
模式地：下仁田町馬山 付近

分布：鑄川右岸の馬山、左岸の南蛇井の標高220～240mと上流域の下仁田町白山の標高240mから下仁田中学校付近の標高260mまで、鑄川の両岸に広い平坦面が形成されている。なお、鑄川に近いところでは、局部的により低い地形面がわずかに見られるが、ここでは下位面については未検討である。また、下位段丘には一部にローム層が乗るところもあ

第1表 馬山～下仁田地域の遺跡一覧 中世の城館跡はのぞく

No	遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	時代	備考
1	36	下鎌田	下仁田町馬山	上位段丘	旧, 縄, 弥, 古, 中	88-90発掘
2	35	長尾根	下仁田町馬山	上位段丘	縄, 中	
3	34	観音寺原	下仁田町馬山	上位段丘	縄, 古, 平	96発掘
4	33	富士塚	下仁田町馬山	上位段丘	縄, 弥	01発掘
5	10	米山	下仁田町馬山	上位段丘	旧, 縄, 古, 中	08発掘
6	—	上横瀬 (仮)	下仁田町横瀬	上位段丘	縄	新発見
7	5	下蒔田	下仁田町下蒔田	下位段丘	縄	99発掘
8	—	常住寺 (仮)	下仁田町東町	上位段丘	縄	新発見
9	32	山際	下仁田町下仁田	下位段丘・山麓	縄	
10	40	熊野	下仁田町下小坂	上位段丘	弥	
11	29	吉崎	下仁田町吉崎	下位段丘	縄	
12	30	鷹ノ巣城 (中島)	下仁田町吉崎	下位段丘	縄, 中	98発掘
13	31	天狗平	下仁田町川井	上位段丘	縄, 弥	発掘
14	11	只川橋下弥生岩陰墓地	下仁田町馬山	下位段丘崖	弥	
15	T118	南蛇井増光寺	富岡市中沢	下位段丘	縄, 弥, 古, 奈, 平, 中	88-91発掘
16	T072	—	富岡市南蛇井	上位段丘	縄, 古	
17	T069	—	富岡市南蛇井	下位段丘	縄	
18	T091	—	富岡市南蛇井	上位段丘	縄, 古	
19	T083	—	富岡市	下位段丘	縄, 古	
20	T084	—	富岡市	上位段丘	縄, 古	
21	T087	—	富岡市	上位段丘	縄, 古	
22	T090	—	富岡市	上位段丘	縄	

[時代] 旧：旧石器, 縄：縄文, 弥：弥生, 古：古墳, 奈：奈良, 平：平安, 中：中世



第2図 馬山～下仁田地域の遺跡分布図

灰色部：旧石器～弥生時代 点線部：古墳時代以降

上：富岡市南蛇井・下仁田町馬山地域 下：下仁田町下仁田地域

り、その層序については調査中である。

比高：右岸の馬山東部の中島では40～45m、上流の白山では25m、下仁田高校付近で10～25m、下仁田上流の下仁田中学校付近で10mである。

遺跡の分布と立地

第2図・第1表は下仁田町馬山から下仁田町歴史館までの鑓川流域の遺跡分布図である。No1～No22はこの範囲内にある旧石器～縄文時代の遺跡で、一部に弥生時代を含んでい

る。また、ナンバーを付していない遺跡は、古墳時代以降のものである。第1表の遺跡番号、遺跡名および時代は、「マッピングぐんま」HP（群馬県企画部情報政策課（2017））にもとづいている。

馬山には上位段丘に旧石器、縄文時代遺跡が多くみられる。No1の下鎌田遺跡はこの地域における大規模遺跡で、上信越自動車道の下仁田インターチェンジの建設に先立つ発掘調査で、旧石器時代のナイフ形石器、尖頭器を含む石器群、縄文時代早期・押型文土器の住居址1軒、前期の関山式土器期を中心に33軒、中期の加曾利 E3式土器期を中心に180軒の

住居址が検出された。中期後半の磨製石斧製作遺跡であり、その石材には栗山川上流茂垣産のヒスイ輝石を含む（上野ほか 2016）緑色岩や打製石斧石材として南牧川上流の象ヶ滝産の頁岩（珪質細粒砂岩；堀越・中村 2015）などが多くみられる。下鎌田遺跡出土の磨製石斧の石材を研究した上野ほか（2016）はヒスイ輝石岩としているが、この岩石は一部にヒスイ輝石を多く含むが、岩石名（石材名）としては玄武岩起源の緑色岩とすべきと思われる。また、早期末～前期初頭とされる珞状耳飾には、北陸（新潟・長野・富山県境の青海-蓮華地域）産の滑石とともに新潟北部産と推定される白色玉髓が用いられている（中村 2017）など、注目すべき遺物が多い。このほか、弥生時代、古墳時代、平安時代、中・近世の遺物も得られた。

No5の米山遺跡は広域農道の建設に伴う発掘調査で、3点の黒曜石製ナイフ形石器、尖頭器、12軒の住居址が検出され、うち9軒は前期、1軒は中期であった。主体は前期後半の諸磯b式土器であり、早期・押型文土器、沈線文土器などから中期・勝坂3式土器までがみられる。また、弥生時代前期末と中期前半の土器も出土した。

No6は群馬県の遺跡地図（群馬県企画部情報政策課 HP 2017）に含まれていない新発見の遺跡である。縄文時代前期の土器をわずかに含み、頁岩の石核、剥片が多く散布する。

対岸の上位段丘には、No16, No18, No20～No22の5遺跡があるが、詳細は明らかになっていない。

上流域ではNo8が新発見の遺跡である。縄文時代前期の土器をわずかに含み、剥片が散布する。No9の山際遺跡に近接するが、立地が全く異なることから別遺跡の可能性もある。No10, No13も上位段丘に位置する。No13の天狗平遺跡の遺物は下仁田町歴史館に出土品が展示されており、早期・押型文土器や前期の土器がみられる。

一方、南蛇井のNo15, No17, No19、及び上流域のNo9は下位段丘に位置するが、遺跡の詳細は不明である。古墳時代の遺跡は、馬山、南蛇井地区だけに認められ、馬山古墳群、南蛇井古墳群など主として下位段丘に立地する。

考察

地形面形成時期と遺跡の立地

下仁田地域の上位段丘、下位段丘は、新井（1986）の鑄川流域の上位段丘、下位段丘に相当し、須貝（1996）のQ2面、Q3c面に相当する。これを受けて上杉・竹本（2000）は、馬山の上位段丘を中位段丘群とし、多摩下部ローム層～多摩中部ローム層の時期の多摩Ⅱ面群に対比され、ステージ6（20～15万年前）ないし20数万年前に離水したと推定した。また、馬山の低位段丘は、最終氷期中に形成された新鮮な礫より構成される低位段丘群（立川面群）に対比された。概ね2.5万年前頃（現在は約3万年前と考えられる）から離水を開

始し、晩氷期海進末期（1.1万年前；現在は約1.5万年前と考えられる）までに離水を完了したと推定した。

なお、下仁田町吉崎の栗山川出口付近は、下位段丘面でありながら若干高い地形になっているが、ここには下位段丘の上に栗山川系の扇状地性礫層が乗っているとしている（上杉・竹本 2000）。

さらに、田力ほか（2011）は、下仁田町馬山の上位段丘の段丘崖に露出する段丘礫層の上に堆積した崖錐性砂礫層の最上部よりカミングトン閃石を特徴的に含む飯縄上樽テフラ（IZ-KTc）を検出し、MIS5/6境界付近の層準と認定した。約15万年前と推定される。これらの研究に従えば、下仁田町の上位段丘は中期更新世の末期、約15万年前より以前に離水した段丘面であり、下位段丘は後期更新世の末期、約3万年前～約1.5万年前に離水した段丘面だといえる。

馬山地区と下仁田地区の大半の旧石器・縄文時代の遺跡は、上位段丘に立地する。鑄川流域では、上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、高崎市吉井町の多比良追部野遺跡、矢田遺跡、多胡蛇黒遺跡、神保富士塚遺跡、長根安坪遺跡、甘楽町の天引狐崎遺跡、天引向原遺跡、白倉下原遺跡などの後期旧石器時代の遺跡が調査されている。これらの旧石器時代遺跡は、ほとんどが新井（1986）の上位段丘に立地している。この地域ではほかに旧石器時代遺跡はほとんど確認されていないが、馬山の遺跡立地と共通する。このような遺跡立地の傾向は、南関東で野川などの中小河川流域の武蔵野面の崖線近くに多くの後期旧石器時代遺跡が立地すること（中村 1997）と類似している。この調査範囲内で旧石器時代遺跡は、下鎌田遺跡と米山遺跡の2遺跡で、発掘調査で深堀りされた地点でのみ発見されている。包含深度が深いので、地表面に古い遺物が浮き上がってくることは少ないため、本格的な調査が実施されたところ以外では、後期旧石器時代の存在は知られていないが、今後、縄文時代の生活面の下から古い時代の生活面が発見される可能性は大きいと思われる。

下位段丘には古墳時代以降の遺跡が多く立地するが、縄文時代にはまだ人類の主要な生活領域にはなっていなかったと推定される。

下仁田地域における鑄川の流路変遷

第四紀地質の分布から、それらの段丘堆積物を形成した旧河川（鑄川）の流路を復元することができる。上位段丘の堆積期には、馬山地区では鑄川が白山～横瀬を通り、馬山の上位段丘の分布域、現在の農免道路の付近を南東-北西方向に下仁田地区からほぼ直線状に流れていたと推定される。その後、南側（関東山地側）が隆起し、浅間山山系から石淵の北の西城山にかけて連続していた山地を鑄川が新たに削り込んで、河川争奪を起し、鑄川が石淵から安楽地の方に流れるようになったと推定される。

したがって、鑄川の流れは約20万年前から次第に北寄りに流路が変遷したことがわかる。この現象は、高崎市吉井町

～甘楽町の段丘を研究した東木（1929）、町田（1963）らによって、鑄川段丘がしだいに北方向に移動し、その原因は関東山塊による傾動運動に導かれたと指摘されている。

不通溪谷・はねこし峡の第四紀地質学的位置

下仁田地区と馬山地区の間は、鑄川が流路を東から北向に変更し、はねこし峡、不通溪谷という狭さく部を形成している。これら2か所の溪谷（狭さく部）は、30～40mの深い谷となっている。この2か所の周辺には白山と安楽地一堀ノ内の下位段丘の平坦面が上に位置している。

約1.5万年前には、これらの地点では鑄川は氾濫原を流れていて、広い平坦面ができていたが、その後、鑄川の下刻がはじまり深い谷になったと考えられる。すなわち、はねこし峡と不通溪谷は長いタイムスケールの地質時代からみれば、ごく最近の後期更新世末以降、約1.5万年前から現在までの短い時間でこのような深く険しい谷が形成されたということになる。溪谷地形は山間部や盆地と盆地の間の狭さく部に形成されるものであるが、下仁田町の2か所の溪谷は極めて短い時間内に形成されたという点が注目される。

また、はねこし峡の西、下仁田地区で鑄川が再度流路を変える青岩公園は、河床に大きな岩盤が露出している。通常、断層や曲降などの運動に起因する盆地では、盆地内に厚い砂礫等の堆積層が形成されるが、上流域の下仁田地区にはあまり第四紀の堆積層が見られず、基盤がすぐ露出している。これは、この地域の沈降運動が顕著でなく、全体が激しい隆起域にあることを意味していると推定される。

まとめ

1. 下仁田町の馬山には明瞭な2段の段丘、上位段丘と下位段丘が分布しており、上流域の下仁田では上位段丘は断片的に4か所にみられる。
2. 調査地域内には22か所の旧石器・縄文時代遺跡（一部に弥生時代を含む）があり、その多くは上位段丘に立地している。
3. 上位段丘は鑄川流域の段丘の中で中位段丘群とされているものに相当し、約15万年～20万年前以前に形成されたと考えられる。下位段丘は同じく下位段丘群に相当し、約3万年～1.5万年前に離水した段丘面である。流域全体で旧石器時代の遺跡は上位段丘に立地する傾向がみられる。
4. 下仁田地域の鑄川は、約20万年前以降、次第に北側に流路を変更している。下仁田では下位段丘の形成後に新たな剝削で溪谷が段丘面の下に形成されるなど、この地域は激しい隆起域に位置する。

あとがき

下仁田地域の段丘と遺跡立地調査にあたっては、下仁田町自然史館および下仁田自然学校に施設使用や調査集会の実施に便宜を受けた。下仁田町教育課長の大河原順次郎氏には遺跡情報のご教示を受けた。これらの方々の記事に感謝する次第である。

文 献

- 新井房夫（1986）鑄川・碓氷川および烏川流域。大森ほか編、日本の地質3・関東地方、181-182。
- 堀越武男・中村由克（2015）鑄川上流地域にみられる石器石材「頁岩」の産地。群馬県立自然史博物館研究報告、19、115-120。
- 群馬県（1994）土地分類基本調査・富岡。国土調査、64p。
- 群馬県企画部情報政策課（2017）マッピングぐんまー遺跡・文化財HP
<http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma>
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編（1994）下倉下原・天引向原遺跡Ⅰー甘楽パーキングエリア地内遺跡の調査ー旧石器時代編。群馬県埋蔵文化財調査事業団、161p。
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編（2010）米山遺跡、県営農免農道整備事業馬山3期に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書。群馬県埋蔵文化財調査事業団、165p。
- 関東火山灰グループ（2009）群馬県甘楽郡下仁田町でみつかった下仁田ローム層の砂粒組成。群馬県立自然史博物館研究報告、13、87-93。
- 金剛堂遺跡研究会（2016）金剛堂遺跡の旧石器・縄文文化。下仁田町自然史館研究報告、1、1-20。
- 金剛堂遺跡研究会（2017）金剛堂遺跡の旧石器文化 2ー2015・2016ー。下仁田町自然史館研究報告、2、51-58。
- 金剛堂遺跡研究会編（2014）金剛堂に旧石器時代をさぐるー金剛堂遺跡と下仁田ローム層ー。下仁田自然学校文庫、8、57p。
- 町田 貞（1963）河岸段丘ーその地形学的研究ー。古今書院、244p。
- 中村由克（1997）旧石器時代遺跡の分布と立地。野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告、5、93-98。
- 中村由克（2017）下鎌田遺跡の石製装身具の石材とその意義。下仁田町自然史館研究報告、2、27-32、口絵2。
- 山武考古学研究所編（1997）下鎌田遺跡。関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書、下仁田町遺跡調査会、541p、373pl。
- 須貝俊彦（1996）関東山地北部、鑄川における河成段丘発達史。日本第四紀学会講演要旨集、26、102-103。
- 田力正好・高田圭太・古澤 明・須貝俊彦（2011）利根川支流、鑄川流域における飯縄火山起源の中期更新世テフラ。第四紀研究、50、21-34。
- 東木龍七（1929）鑄川及び碓氷川の段丘と地塊運動ー山間平野形態の成因研究法ー。地学雑誌、41、490、754-765。
- 上野真由美・柴田 徹・西井幸雄・麻生敏隆・坂下貴則・小茂田 幹・大屋道則（2016）ヒスイ輝石岩製の磨製石斧。埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要、30、69-86。
- 上杉 陽・竹本弘幸（2000）関東北西部、鑄川中下流部段丘地帯に出現した中位段丘構成層と浅間系テフラ群を切る新露頭紹介。関東の四紀、23、9-18。

(要 旨)

中村由克・金剛萱遺跡研究会（2018）下仁田の段丘と遺跡. 下仁田町自然史館研究報告, 3, 27-32.

下仁田町馬山では典型的な2段の段丘地形が見られるが、それより上流側では上位段丘はあまり発達しない。上位段丘は中期更新世の末期に、下位段丘は後期更新世の末期に形成されたと推定される。上位段丘には、旧石器時代、縄文時代の遺跡が立地し、下位段丘には古墳時代以降の遺跡が立地する傾向がある。